

平成13年度事業計画

平成13年度は、ミレニアム委員会からの提言を受け、2001年1月号から分冊した学会機関誌 論文誌(JOS)と情報誌(オレオサイエンス)の育成、新しい運営方法による年会(仙台)の開催および新組織のマスターズ・クラブの活動などを通じて、油化学会を一層魅力ある学会をめざして着実に変貌させてゆくうえで重要な年である。さらには、これらに併せて、1年後に予定されている創立50周年を迎えるための式典や50年史編纂などの記念事業の準備を集大成すること、および2004年AOCs/JOCS Joint Symposiumへの準備に早くも入らねばならぬ時期であり、多くの事業計画を遂行してゆかねばならぬ年度である。

一方、昨今の学会の経営環境は、経済および行政対応の両面から、ますます厳しい状況に立ち至っており、12年度に取り組んできた各種の財務健全化対策を一層強化するとともに、組織・運営の在り方についてさらに深く掘り下げて検討し、将来にそなえることが肝要である。それには、会員各位に学会活動への積極的な参加が不可欠であり、各位のご理解を切に求めたい。

1 会務

1.1 総会

第47回通常総会を平成13年3月30日、油脂工業会館会議室で開催する。平成12年度事業報告および収支報告、平成13年度事業計画案および収支予算案、などを審議し、平成13年度役員を選任、名誉会員を推戴する。

通常総会終了後、総会報告会および表彰式を開催し、日本油化学会功績賞および平成12年度学会賞等選考結果などについて報告し、表彰する。

1.2 理事会

平成13年度理事会開催予定数は、5回。平成13年度役員を選任、運営委員、各業務委員、専門部会委員および支部長等の選任、諸事業の計画推進、平成13年度一般会計・特別会計決算案および平成14年度同予算案など、重要案件について審議する。

1.3 運営委員会および運営会議

日本油化学会の本部機構として機能するため、運営委員会および運営会議の開催予定数は、それぞれ6回および5回とする。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について審議するが、さらに油化学会全般の課題について討論する場としたい。

1.4 業務委員会および規格試験法委員会

業務委員会の構成を次のように改める。

財務委員会に広告委員会の職務を委嘱し、広告委員会を解散する。

編集委員会に、オレオサイエンス編集委員会およびJOS編集委員会を設ける。

規格試験法委員会に、脂肪酸誘導體小委員会および英文試験法発行検討小委員会を新設し、トランス酸小委員会および2位脂肪酸小委員会を解散する。

1.5 本部機構

日本油化学会の本部機構は、理事会、運営委員会、運営会議および事務局をもって構成、会務の運営にあたることにした。

2 事業計画案

2.1 専門部会

12年度の専門部会の活動は、講演会、セミナー等に加えて、ミレニアム委員会の提言による年会時に専門部会主催のシンポジウム、ランチョンセミナー等の開催が検討されている。

また、新規の事業として、界面科学部会を中心に「界面活性剤試験法」の制定を目的に界面活性剤試験法準備委員会を設けることにした。

フレッシュマンセミナーは、専門部会活動の一貫として5月に「油脂と脂質」、6月に「界面科学と界面活性剤」について開催することにした。

2.2 支部

支部による講演会、セミナー等は、それぞれの支部事情に即して行なうが、支部活動の一貫として、油脂工業会館共催地区講演会を甲府市、金沢市等5都市で開催する。

本年も支部のあり様については引き続き検討を続ける。

2.3 会誌

2001年1月号から、会誌の題号を「Journal of Oleo Science」に変更し、あらたに情報誌「オレオサイエンス」を発刊した。会員にとって魅力ある会誌作りにつとめるとともに、なお一層内容の充実を図り、国際的にも評価が得られるよう努力する。財政的にも対応できるよう会誌出版費の見直しを行なうほか、あらたに電子ジャーナルの検討を開始する。

2.4 日本油化学会年会

平成13年度日本油化学会年会は、東北大学藤本健四郎教授を実行委員長として、仙台国際センターにおいて10月4日(木)～5日(金)に開催する。本年度より、専門部会による部会シンポジウム、ランチョンセミナーや工場見学会等の企画がなされ、より充実した会合にするよう検討している。

2.5 マスターズクラブ

熟年に達した会員をメンバーとするマスターズクラブを創設する。会員相互の親睦を図るとともに、会員の知識、経験、知恵を役立てる機会を探求する。それらの活動が当会のさらなる発展に寄与することを期待する。

4月に参加者を募集し、第1回目の会合を6月に開催する計画である。

2.6 創立50周年記念事業

総務、財務、記念講演、年会プログラム、会場、祝賀、シンポジウム、油脂化学便覧改訂、50年史出版の各小委員会において担当業務の計画を進めるとともに、実行委員会においてそれぞれの業務の準備進捗状況を逐次検討する予定である。なお、スポーツ大会と記念品制作の両小委員会は、平成14年年初から具体的な準備を進めることを実行委員会で確認した。

2.7 AOCs/JOCs ジョイント・シンポジウム(J S 2 0 0 4)

日米油化学会のジョイント・ミーティングは7年ごとに開催することになっている。技術の進歩が早い今日、7年間のインターバルはあまりにも長いので、2004年に両者を主催者とする会合を検討することにした。2004年の会合は、ジョイント・ミーティングとは性格を変え、テーマを設けたシンポジウムの形式で行うことを検討している。

平成 12 年度役員及び委員

会 長	大場 健吉								
副 会 長	伊藤 俊洋	竹原 將博	池田 功						
常務理事	太田 昌男								
理 事	朝倉 浩一	阿部 正彦	小山内州一	蔵本 暢浩	小山 基雄				
	島崎 弘幸	関谷 次郎	高木 克彦	滝沢 靖臣	戸谷洋一郎				
	富田 健一	町田 芳章	藤本健四郎	山口 道廣	和田 俊				
監 事	加藤 保春	小林 陽信	佐藤 征						
支 部	関東支部	支部長 戸谷洋一郎	副支部長 小山内州一	富田 健一					
	東海支部	支部長 高木 克彦	副支部長 荒木 芳彦						
	関西支部	支部長 筧 哲男	副支部長 蔵本 暢浩	谷口五十槻					
代 議 員	関東支部	6 6 名							
	東海支部	1 4 名							
	関西支部	4 0 名							
事務局長	太田 昌男								